

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、入居者の皆様が、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることと掲げております。この理念に基づき日常生活支援はもとより、特に、かかりつけ医療機関への受診の際には、スタッフによる送迎を行い、包括的なケアを実践しています。また、敷地の側には小川が流れている等自然環境にも恵まれていることから、周辺を散策したり畑や花壇を作り楽しむことができます。建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けております。また、トイレを5箇所ご用意し、身体的なケアが必要な方も安心してご利用いただけるよう広めのトイレを設けております。また、隣接したゲストハウスも有り宿泊もできます。入居者様のみならずご家族様にも安心していただけるような介護サービスを目指し、常に意識の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0173600537-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住みなれた土地こそ苫小牧ですこやかに」というホーム独自の理念を掲げ、管理者、職員のみならず家族アンケートでは家族からも共感を得て、理念は家族とも共有されています。住宅街から離れていますが、近隣の公園や温泉施設への道は散歩道にもなっており、散歩中の地域の方々や挨拶を交わすなど、馴染みの関係になっています。また、神社の御輿がホームに来てくれたり、法人合同の夏祭りや運動会では、隣接の障害者支援施設の方々と交流を深めています。医療体制も協力医ばかりではなく近隣の病院とも話し合いをし、道南看護ステーションと委託契約を締結して重度化に向けた支援体制づくりに取り組んでいます。利用者一人ひとりの担当者は状況を手紙で家族に伝え、家族が訪問の際には笑顔で迎え、話をしやすい対応で家族の声が伝わる支援を行っています。また、職員はケアで気づきがあれば会議で提案し、改善に繋がっています。職員の離職者はここ数年はなく、職員の安定した環境は利用者の安心や笑顔で過ごせるホームに繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ名札と共に携帯をしている。またホールに理念を掲げている。家庭的な雰囲気の中で住み慣れた場所で穏やかに過ごしていただけるよう配慮している。	ホーム独自の理念は、管理者や職員はもとより家族も含めて理解し、共有しています。家族からいただいたアンケートでも理念に共感していることが示されています。職員は日々のケアを通し、理念の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設や町内会とのかかわりを持っている。付近の住民の方との交流は少ないが、散歩や外出された際にふれあいを持っている。	近隣の公園等への散歩中に地域の方々と挨拶を交わしたり、神社の御輿がホームまで来てくれたり、隣接の障害者支援施設の方々と夏祭りや運動会を楽しんでいます。また、職員のお子さんが訪問の折には利用者との触れ合いもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受けることのできる体制を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や市の職員にも参加を頂き助言を受け、スタッフ間にてその内容を共有している。	会議は関係者出席の下、2ヵ月毎に開催して入居者の状況等を報告し、種々の課題について話し合っています。出席者から会議の開催を夕方に開催しては、との助言を受け検討をしています。ホームへの理解や家族の参加を得るための議事録の工夫を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他の場面も含め、市の職員と会話をする機会を設けている。	市の福祉協力体制は良好で、運営推進会議に市介護福祉課職員が出席、ホームの実情や取り組みについての理解は得られています。日頃から行政窓口と連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っている入居者様はいなく、また日頃からスタッフ間にて身体拘束についての状況を共有している。	身体拘束防止に関するマニュアルを整備し、管理者、職員は北海道外部研修の参加や法人研修、内部研修で理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。一人で外出した利用者には、隣接の法人本部職員の協力も得ながら見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて意識の共有を図ったり、また日頃からスタッフ間にて話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけるとともに、不安の無いようご家族様と会話の機会を多く設けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設けている。また重要事項説明書において外部機関への連絡先を明記している。	訪問の家族を笑顔で迎え、話をするなど訪問しやすい雰囲気作りに努め、些細な意見でも出来ることは直ちに対応をしています。また、担当職員は事業所便りや手紙等で状況を伝え、利用者並びに家族の意見や要望を運営に反映させるように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やその他日常での会話の場面を通し、話しやすい雰囲気づくりを行っている。	管理者と職員は話しやすい環境にあり、職員は日々のケアの中での気づきを会議等で提案し、検討が行われています。自動ドアが利用者の安全に繋がる引き戸になったり、勤務体制も職員の意見を取り入れるなど就業環境にも配慮があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と各スタッフが会話をする機会を多く設け、希望や要望を伝えやすい雰囲気づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を通し情報の提供を行っている。また資格取得等についても相談を受け、都度アドバイスを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会を通し、他のグループホームとの連携を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントを行いご本人様の不安や困っていることを把握した上で、その都度安心してご入居いただけるよう説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご不安なことについて、いつでも気軽にお問い合わせを頂ける体制を確保しているほか、連絡を密にとることで良い関係を築くことができるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その都度ご本人様・ご家族様と相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々共に生活をする者として協力し合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いをスタッフ間にて共有し、ご家族とスタッフが同じ思いでご本人様を支えることができるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様からの情報をもとに、馴染みの方や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。	利用者本人の希望による外食や買い物など、入居前の習慣を大切に支援をしています。訪問理容師とも馴染みの関係が築かれ、管理者、職員は知人の訪問を笑顔で迎え、馴染みの関係が途切れない細やかな支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人で過ごされる時間を大事にしながらも、ホールにて他の方やスタッフと談笑していただく時間を多くとっていただけるよう配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であってもいつでも連絡を取り合える環境作りを行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向や思いを重視し日々のケアを行っている。またその実現に向けその都度対応を行っている。	職員は利用者一人ひとりに寄り添い、日々のケアの中から思いや意向の把握に努めています。利用者の思いを汲み取る工夫は、写真での好きな食べ物メニューアンケートからは、好みの食べ物の把握に繋がっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際にご本人様・ご家族様から詳しい情報を頂けるようにし、スタッフ間での情報の共有を図っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をスタッフ間にて共有するとともに、日々の会話の中で情報の共有を図っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や日々の会話の中でご本人様の状況を共有し、定期的及び都度のモニタリングにより状況にあった介護計画の作成を心がけている。	介護計画は、利用者や家族の意向も聴きながら、3ヵ月から6ヶ月毎に作成されています。介護計画と日々の記録の連動性が十分ではありません。	日々のケアが介護計画に沿って実践されているか、職員は気づきや工夫を生活記録などに記載すると共に情報の蓄積を行い、実施状況の把握やサービスの評価及び見直し文書があるかなどに留意し、アセスメントやモニタリングが活かされるような記録の整備への取り組みに期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行いスタッフ間にて情報の共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスを利用された方はいらっしゃらないが、状況に応じて柔軟に対応することのできる体制を確保している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれた立地を生かし、ご本人様にとって満足していただくことのできる安全な生活の提供を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を重視し、またご本人様・ご家族様の希望を重視し適切な医療を受けることができるよう支援を行っている。	利用者や家族の希望によるかかりつけ医への受診は、家族の協力も得ながら支援をしています。また、家族の安心に繋がる利用者の急変に備え協力医と協定し、医療体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携・相談を実施し、状況に応じての医療機関への受診を実施している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医師や相談員との良好な関係を築き、入院された際にも安心して治療を受けていただけるよう連携に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に聞き取りを実施しているほか、ご本人様の状況に合わせてご家族と話し合いを行う機会を設けている。	重度化や終末期に向けた取り組みとして、入居契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を明示し、内容の説明を行っています。道南看護ステーションが月一度訪問の際、利用者の日々の状況を話し、相談をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置のほか、法人内での研修に参加をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難方法の検討を行うとともに、町内会および近隣施設との連携に努めている。	ホームの立地上、地域の方々との協力は困難ですが、運営推進会議のメンバーには見学いただいています。災害時の備蓄はホームはもとより隣接の法人事務所にも食料や暖房器具の備えがあります。3月末に夜間想定訓練を予定しています。	消防署立会いの避難訓練を活かし、自然災害を含め、職員のさらなる防災体制への取り組みに期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その都度ご本人様を尊重し対応を行うとともに、些細なことであっても常にご本人様に敬意をもって対応を行っている。	管理者及び職員は利用者一人ひとりの尊厳並びに年長者への敬意に配慮した支援を行っています。不適切に近い対応が見られた場合は、職員間で注意し合える関係作りに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度ご本人様の希望や思いを尊重し、また気軽にスタッフへ伝えていただけるような関係づくりを重視している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースを大切に、その都度対応を行えるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望するおしゃれを行えるようその都度支援を実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人のできる範囲内でお手伝いしている。	管理栄養士作成のバランスの取れた献立に沿って、調理がなされています。利用者は持てる力を発揮し、食事の準備を職員と一緒にしています。週1回開かれる茶話会のおやつは職員、利用者が一緒に買いに行き楽しみの一つです。好きな食べ物アンケートは、写真入りメニューで食欲に繋がる工夫がされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近隣施設の栄養士に相談をしながら献立を決定するとともに、その方の状況や病状に合わせて食事や水分の提供をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度清潔な状態を保っていただけるよう配慮している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状況に合わせた排泄介護を実施している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し羞恥心に配慮した声かけや、早めの誘導などで支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師への相談のほか、水分の摂取や運動を行うなどお一人お一人に応じた対応を心がけて居る。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴日の設定をしているが、ご本人様の希望や必要な状況があった際にはその都度対応を行えるようにしている。	入浴は週3回を目安に、希望に応じて都度入浴が出来る体制です。入浴を拒む利用者には足浴の声かけから、入浴に繋がる工夫もされています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態やペースに合わせて過ごしていただけるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬をしていただけるようその都度配慮を行っている。また内服薬についてスタッフ間に共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人にあわせた過ごし方をしていただけるよう配慮を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度ご本人様の希望に沿って外出していただけるよう配慮している。またご家族様への相談も随時行っている。	天気の良い日はホーム周辺を散歩をしたりドライブに出かけています。通院の際にはドライブがてら利用者の希望の場所や外食、花見、買い物と一人ひとりの身体状況に合わせた支援をしています。新年は神社へ初詣に行くなど家族の協力も得ながら支援に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿って買い物を実施できるよう支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度対応をさせていただいている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを過ごしやすい場所として穏やかな環境を提供するほか、装飾などを行い季節感を感じながらのんびりしていただける場所を提供している。	共用空間のリビングは広く、落ち着いた雰囲気を利用者は好みの場所で過ごしています。トイレも車いす対応のトイレは介護の職員も動きやすい空間で、廊下等はコルクタイルの床で、転倒時の安全にも配慮されています。リビングの一角には神棚もあり、毎朝手を合わせるなど入居前と同じ習慣で過ごす利用者もいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室をご用意しているほか、ソファでくつろぎながら過ごしていただけるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただくほか、レイアウトなどもご本人が居心地良く過ごせるよう自由にしていただいている。	居室は家族とも相談して、入居前に使用していた家具や調度品、写真などが持ち込まれ、清潔で安全に配慮されています。2階の居室は大きな窓から海が見渡せ後方は樽前山と、季節を感じさせる癒しの風景にもなっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーのほか広めなトイレを用意している。また各居室に目印をつけ、迷うことなく安心して過ごしていただけるよう配慮している。			